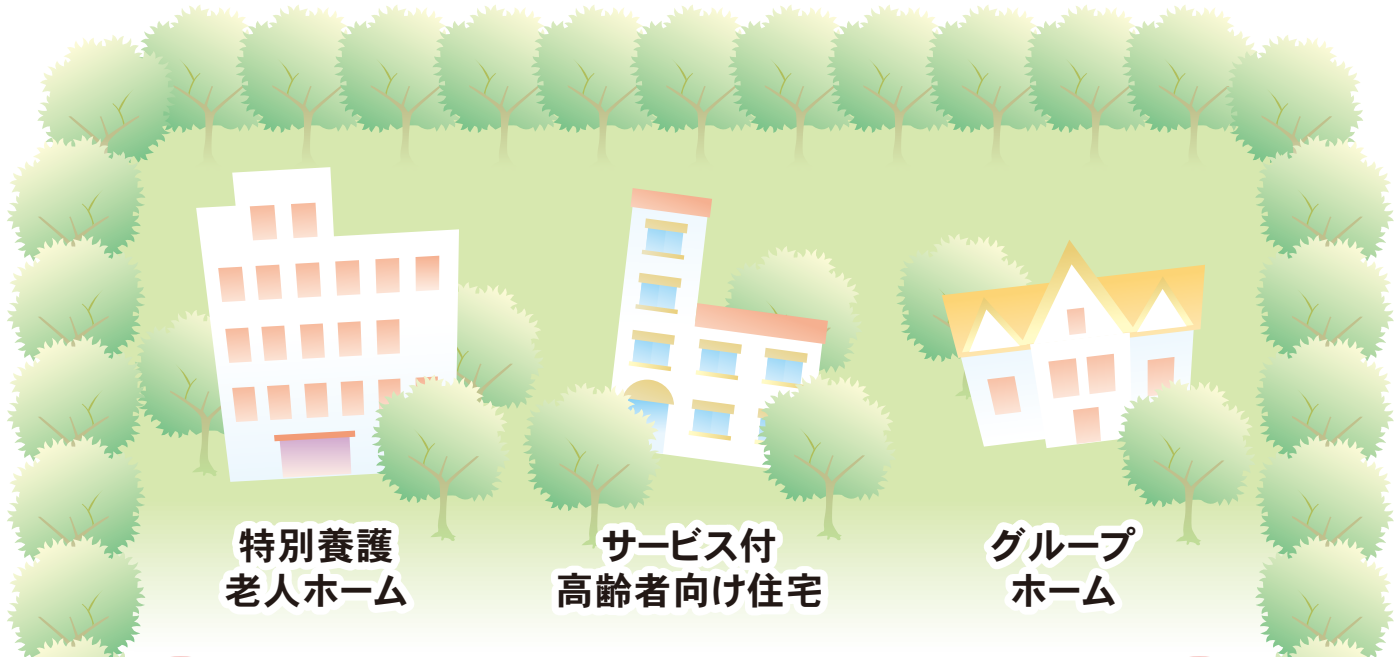


今さら聞けない 「高齢者施設の選び方」

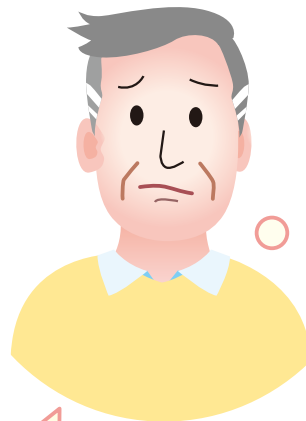
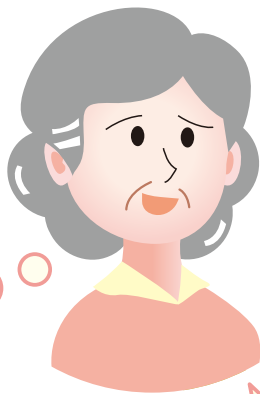


特別養護
老人ホーム

サービス付
高齢者向け住宅

グループ
ホーム

どの施設が
適しているか？



入居費用はいくら
かかるのだろう？

アイエムさん
教えて！

高齢者施設の種類と特長をご案内します。

日本の総人口は1億2699万人で、65歳以上の方は3443万人(27.1%)。

100歳以上の方は、6万5000人です。※平成28年7月1日現在

それに伴い、認知症患者数や要介護者数が増加傾向にあり、高齢者施設への注目度が高まっています。

■ 高齢者施設の種類

	施設の種類	要介護度	認知症の有無	医療依存度	予算	
民間運営	有料老人ホーム	①介護付有料老人ホーム	自立～重度	◎	◎	中～高
		住宅型有料老人ホーム	自立～中度	○	○	中～高
		健康型有料老人ホーム	自立	×	×	高
	その他の施設	②サービス付高齢者向け住宅	自立～中度	○	○	低～中
		③グループホーム(認知症対応型共同生活介護)	要支援2以上	◎	△	中～高
公的施設	介護保険施設	④特別養護老人ホーム(特養)	要介護3以上	○	○	低
		⑤介護老人保健施設(老健)	要介護1以上	○	◎	低～中
		介護療養型医療施設	要介護1以上	○	◎	低～中
	福祉施設	ケアハウス(軽費老人ホーム)	自立～重度	△	△	低～中
		養護老人ホーム	自立～中度	△	×	低～中

■ 主な高齢者施設の特長

①介護付有料老人ホーム

民間運営。食事をはじめとした健康管理、掃除や洗濯、入浴、排泄など日常生活において介護サービスを受けられます。65歳以上で共同生活になじめる方が対象(例外あり)。介護専用タイプでは要介護1以上、混合タイプでは自立生活を送れる方でも入居できます。ただし、施設によって入居基準が異なるので事前の確認が必要です。費用についても、施設により様々ですので必ず事前に確認する必要があります。

②サービス付高齢者向け住宅(サ高住)

民間運営であり都道府県単位で登録された高齢者の住みやすい賃貸住宅です。60歳以上の高齢者または要支援、要介護者が対象。ケアの専門家が少なくとも日中は常駐し、安否確認サービスと生活相談サービスなどを提供します。かなり自由度が高く、介護は外部サービスを利用し、入居前のケアマネージャーも継続してお願いできます。特養の入居待ちのため、一時的に使用する方も多い。



介護サービスには大きく分けて2種類あります。

③グループホーム (認知症対応型共同生活介護)

市町村や社会福祉法人、NPOなどが運営しその地域の住民だけが受けられる地域密着型サービス。65歳以上で認知の症状をもち、要支援2または要介護1以上が対象(例外あり)。また地域密着サービスなのでその地域に住んでいる(住民票がある)事も必要になります。入居者は介護スタッフのサポートを受けながら、5人～9人のユニット単位で共同生活を送り認知の進行を緩やかにすることを目的としています。ただし、身体状況が悪化し1人で着替えや食事、排泄などでできなくなったり、日常的な医療ケアが必要になったりすると退去しなくてはなりません。

④介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム⇒特養)

地方自治体などが運営。65歳以上、要介護3以上が対象(例外あり)。身体的・精神的に常時介護を必要とする要介護者の生活の場所であり、入所した人はそこで余生を過ごすため、「終の棲家」的存在です。そのため待機の方が多くなかなか入居できません。また、福祉型の施設のため、長期入院を必要とする方の入居は難しいとされています。

⑤介護老人保健施設(老健)

医療法人や社会福祉法人などの運営する公的施設。65歳以上、要介護1以上が対象(例外あり)。食事や排泄の介助などの介護サービスはあるが、あくまで在宅復帰を目指す施設のため提供されるのは自宅に戻るためのリハビリが中心。特養と違い終身ではなく3ヶ月ごとに退所判定会議が行われ退所せざるおえないことも。そのため入所後も次の施設を考えておく必要があります。

1 在宅サービス

- ・訪問介護
- ・訪問看護
- ・訪問リハビリテーション
- ・通所介護(デイサービス)
- ・福祉用具貸与

メリット

- ・安価である。
- ・在宅なので住み慣れた環境で家族と過ごす事ができる。

デメリット

- ・家族の負担が大きい。
- ・24時間対応ではないので時間外の対応が困難。

2 施設サービス

- ・介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム⇒特養)
- ・介護老人保健施設(老健)
- ・介護療養型医療施設介護付有料老人ホーム
- ・サービス付高齢者向け住宅(サ高住)
- ・グループホーム(認知症対応型共同生活介護)
- ・ケアハウス(軽費老人ホーム)

メリット

- ・家族の負担が少ない。
- ・緊急時対応可。
- ・入居者同士で交流がはかれる。

デメリット

- ・費用が高い。
- ・施設ごとに入居条件が違う。
- ・地元から離れてしまう。

まとめ

高齢者施設選定の最大のポイントは、「必ず施設に足を運び見学する事」です。同じ特養でも、同じ老健でも施設によって全く違います。設備や職員の態度、入居者の食事の内容や食事時の雰囲気などしっかり確認しましょう。ご自宅からその施設までのアクセスも重要です。事前に情報収集して後悔しない施設をお選びください。

要支援・要介護って何？

要支援・要介護とは、介護サービスを受ける際に、その状態がどの程度なのかを判定するものです。

要支援(1～2)、要介護(1～5)のいずれかの区分に認定されたのちにそれぞれで利用できる介護サービスの範囲や量、負担料金の上限などが決まってきます。要支援・要介護の判定を受けるのは、申請書や主治医の意見書などを用意して、各市町村へ申請します。詳しくは各市町村の介護保険課などにお尋ねください。

<p>要支援1 日常生活上の基本動作については、ほぼ自分で行うことが可能ですが、要介護状態への進行を予防するために、手段的日常生活動作において何らかの支援が必要な状態。 支給限度額(月間):5万30円</p>	<p>要支援2 要支援1と比べて、手段的日常生活動作を行う能力がわずかに低下し、機能の維持や改善のために何らかの支援が必要な状態。 支給限度額(月間):10万4730円</p>
<p>要介護1 要支援の状態からさらに手段的日常生活動作の能力が低下。排泄や入浴などに部分的な介護が必要な状態。 支給限度額(月間):16万6920円</p>	<p>要介護2 要介護1の状態に加えて、歩行や起き上がりなどに部分的な介護が必要な状態。 支給限度額(月間):19万6160円</p>
<p>要介護3 要介護2の状態からさらに手段的日常生活動作および日常生活動作が著しく低下し、立ち上がりや歩行が自力ではできず、排泄や入浴、衣服の着脱などにもほぼ全面的な介護が必要な状態。 支給限度額(月間):26万9310円</p>	<p>要介護4 要介護3よりも動作能力が著しく低下し、日常生活のほぼ全般を介護なしで行うことが困難な状態。 支給限度額(月間):30万8060円</p>
<p>要介護5 要介護4の状態よりさらに動作能力が低下し、意思の伝達も困難になり、介護無しには日常生活を送ることが不可能な状態。 支給限度額(月間):36万650円</p>	<p>■日常生活動作と手段的日常生活動作とは 日常生活動作:食事、排泄、整容、移動、入浴などの日常生活で基本的な行動 手段的日常生活動作:買い物、家事全般、服薬管理、支払い手続き、趣味の活動など</p>

◎これらはあくまでも標準的な地域の場合の目安になります。

実際に利用できるサービスについては、ケアマネージャー[※]に相談しましょう。

※ケアマネージャー(介護支援専門員)とは

ケアマネージャーは、介護認定を受けた要介護者やそのご家族の相談に応じ、それをもとにその方にあったケアプランをたて、適切な介護保険サービスが受けられるよう関係機関との調整をおこなったりします。介護認定を受けたら必ずケアマネージャーに相談しましょう。

アイエムも高齢者施設のご紹介・ご相談を承っております。お気軽にご連絡ください。

—— 供養で未来を創る ——

 aiemu

愛樹木葬 墓石 葬儀

株式会社アイエム/東京都中央区京橋2-8-1 八重洲中央ビル6F

葬儀本部 直通ダイヤル ☎ **0120-601-727** FAX **03-3535-2740**

事前相談をさせていただいても、アイエムで必ず葬儀をする必要はありません。ご安心ください。

なるほど安心倶楽部会員の皆様は
アイエム葬儀プラン代金10%off